

土間と布を一発で

型枠断熱材使い工期短縮

斜里・丹羽工務店

世界遺産に指定されたあたり、布基礎と土間、地中梁、束を一発で打設し、同時に基礎断熱工事(丹羽豊成社長)で、型枠兼用断熱材「フォームベース」(製造販売・北海道カネパール株式会社)を使って基礎を自社施工することにより、基礎工事にかかる工期短縮とコストダウンを進めている。

FAS工法の家を手がける同社では、6年ほど前にコストを抑えた規格型住宅の開発を考えるに

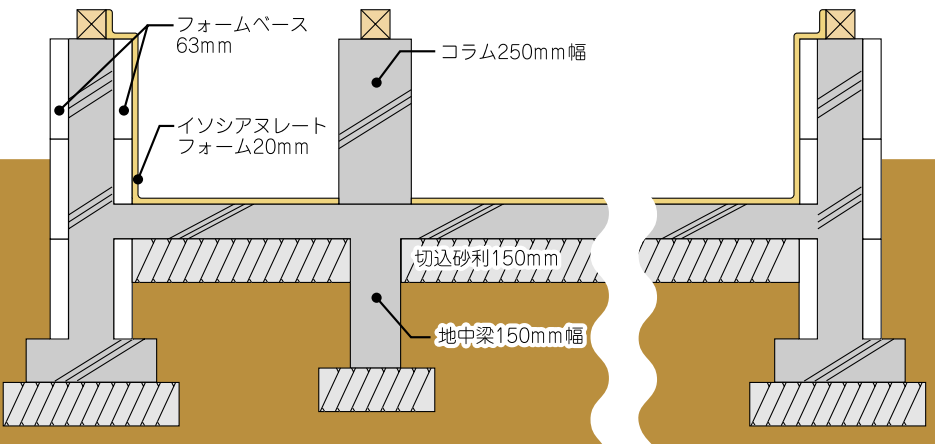
あたり、布基礎と土間、地中梁、束を一発で打設し、同時に基礎断熱工事も完了する型枠兼用断熱材を導入。ただ、当時使用していた製品はプラスチック製セパレータの設置位置が限定されるほか、セパレータ端部が化粧仕上げを行う際に不陸が生じる原因になったり、組み立てた型枠断熱材を固定する専用治具がないなどのデメリットがあった。

3年ほど前から使い始

めたフォームベースは、セパレータ一体のプロック形状なので組み立てや化粧仕上げがやりやすく、型枠断熱材の固定もこの字型の専用治具を上部にはめ、単管パイプを治具両側の受け部分に乗せるだけで済むので、施工効率が一段と向上。コンパネの解体・後片づけが不要で、ゴミがほとんど出ないこともメリットになっているという。

コンパネを使って型枠を組んでいた頃と比べた場合、コンパネ型枠の組み立て・解体が不要となり、ミキサー車が現場に入る回数も2回で済むことから、4間×5間の建坪であれば基礎工事の工期は根掘りから4、5日で終了と半分短縮。コストに関しては材料費だけ見ればほとんど同じだが、工期が短縮された分だけ人件費の削減につながり、基礎工事全体で2割程度のコストダウンになっている。

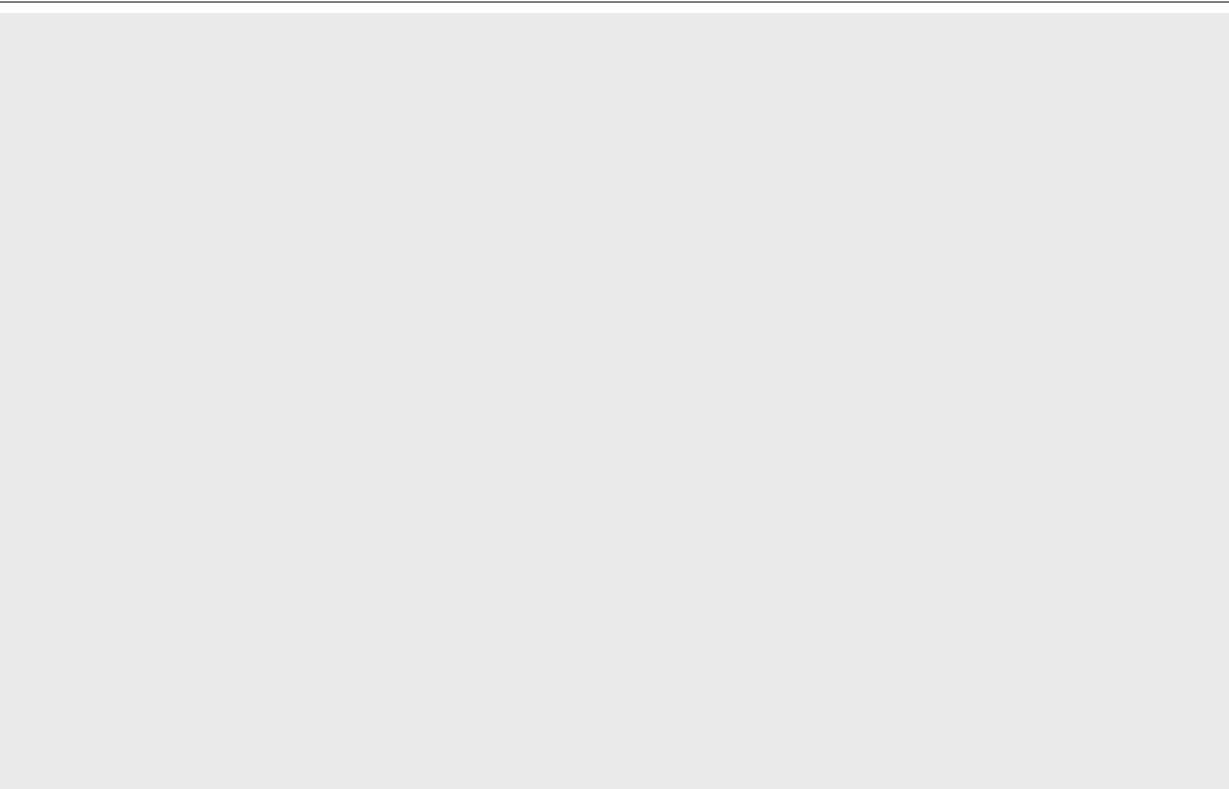
同社の丹羽豊文専務は「フォームベースによって基礎工事をだいぶ合理化できた。さらに型枠断熱材の薄手化と断熱性の向上が同時に実現できれば、土台の水切りなどの納まりや住宅全体のプロポーションがもっと良くなると思う。今後も住宅トータルでコストダウンと性能の向上を同時に進めることにより、ユーザーに求められる家づくりを目指していきたい」と話している。



フォームベースを使った基礎の仕様



基礎施工に使用している型枠兼用断熱材のフォームベース



製品プロフィール	製品名	フォームベース
	部位等	基礎断熱型枠
	価格	2400円(基礎幅120mm用)・2600円(同150mm用)/個(税別)
	問い合わせ	北海道カネパール(株)営業二部 札幌市中央区南2条東1丁目1-14 住友生命札幌中央ビル ☎011-222-8331 http://www.10.ocn.ne.jp/~hkp/